

## 令和7年度 第1回 尼崎21世紀の森づくり協議会 議事録

日時 令和7年10月9日（木）15時00分～16時30分  
場所 尼崎の森中央緑地 パークセンターハウス

### ○委員（出席者14名）(五十音順)

| 氏名    | 役職                     |
|-------|------------------------|
| 東 朋子  | NPO 法人コミュニティ事業支援ネット理事長 |
| 今岡 政彦 | 尼崎商工会議所総務部長            |
| 上田尾 真 | (株)神戸新聞社阪神・北摂総局長       |
| 植村 優子 | 阪神電気鉄道(株)沿線価値創造推進室部長   |
| 岡田 博行 | 尼崎信用金庫サスティナブル推進部長      |
| 上月 康則 | 徳島大学教授                 |
| 嶽山 洋志 | 兵庫県立大学大学院准教授           |
| 團野 札子 | 兵庫県阪神南県民センター長          |
| 中瀬 敦  | 兵庫県立人と自然の博物館名誉館長       |
| 西村 善明 | 尼崎鉄工団地協同組合特別顧問         |
| 藤井 大輔 | 尼崎市都市整備局長              |
| 宮本 和博 | 日本製鉄(株)関西製鉄所大阪総務室主査    |
| 宗 和弘  | アマフォレストの会会長            |
| 渡邊 明美 | 尼崎市教育委員会事務局学校教育部長      |

### ■資料の確認／事務局

#### 【資料】

資料1 「尼崎21世紀の森構想」今年度の取組状況

資料2 尼崎 臨海 来んかい！ 体験会～環境学習フェア2025～ 実績報告書

資料3 尼崎21世紀の森構想エリアにおける「共創」によるまちづくりの推進について

#### 【参考資料】

参考資料1 尼崎21世紀の森づくり協議会設置要綱

参考資料2 令和6年度第2回尼崎21世紀の森づくり協議会議事録

### ■協議会会長選任

出席委員の互選により中瀬委員を会長に選任

### ■会長による開会の挨拶

経験と知識が豊富と仰っていただいたが、経験の方は多く、もうかれこれ50年になった。先程、現地見学を行ったが、例年はもう少し緑に元気があると思うが、今日は少し木々が疲れている雰囲気だった。先程から「中央緑地」や「21世紀の森」の2つの言葉が出ているが、整備された緑は公園緑地課、これから整備される場所は港湾課が担当している。貝原前兵庫県知事の頃に、阪神淡路大震災の復興セミナーがあり、東京から来られた先生が「県民が種から作る公園」と発言された。それから、市民参加で100年かけて地域のDNAを持った苗を集めて作るという方針が出された。日本で地域種苗を使った公園づくりははじめてで、多分これまでにできたところは無いと言っても過言ではないぐらい、生物多様性の面では凄い。高校生や企業を含めこれだけ住民参加で始まった公園も、日本ではここ以外、それ程無いように思う。最近、日本中を見学しているが、地元の市民および

NPOが関与していないと維持できていないと感じた。役所だけでは草が生え、どうしようもなくなっているケースが目に見える。ここは、当初から市民の方々が関わっていることが強みである。尼崎21世紀の森構想エリアでは、森と工場と運河を一体化してまちづくりをやっていこうということが言われており、まちづくりの観点で見ると新しい。拠点としてみどりを作りそれが中心になって周辺には運河があり、全体が一体化することで地域活性化につながるという、素晴らしいことを一緒に関わらせてもらっている。その一員として、これから改めて始めるんだということを現地見学しながら考えていた。これを日本一、他の追随を許さないぐらいの迫力で議論していただいたらありがたいと思う。

### ■報告事項

- (1) 「尼崎21世紀の森構想」今年度の取組状況（資料1）
- (2) 環境学習フェアの開催について（資料2）

### ○資料説明（事務局）

資料1から資料2をもとに事務局より説明。

### ○意見交換

委員：尼崎の森中央緑地を県民の皆さんに知ってもらうということで、県では大規模イベントに関わっている。知っていたいいる方がリピーターで来られていることが多いと思うが、新しい方にも沢山来ていただいた方が良いと思う。新しい方がどれぐらい来られているのか分かるイベントはあるのか。資料1の「ロハスピクニック」の後援に芦屋市と記載があり、こういうことは広がりがあって良いと思う。

事務局：尼崎の森中央緑地に来園される方のうち、初めて来られた方がどこからどのくらい来たのかは、細かくデータを取っていないため分からず。広報としては、尼崎市以外にもできるだけ広くしているため、認知度は多少上がってきてるのではないかと思う。

会長：兵庫県の有馬富士公園に関わっていた藤本真理先生が、公園は、緑や生き物が好きな人だけではなく、ダンスや音楽好きの人などを呼ばなければ、公園は活性化しないと言われていた。色々な業態の人を呼ぼうということでは非頑張ってほしい。SNSをどう活用するかということもあると思う。

委員：昨年の環境学習フォーラムに参加させていただき、今年は日程が合わず私自身は行けなかつたが、会社の者が環境学習フェアを拝見させていただいた。子どもたちが生き生きと楽しみ、喜ぶ姿が印象的であったと聞いたので、この場をお借りして皆様にお伝えしたい。

委員：資料1の2ページ目の「第10回森の文化祭in尼崎の森中央緑地」の企画運営をしている。今年は3,500名の皆さんにお越しいただいた。尼崎21世紀の森構想エリアにある大庄地域の方々が積極的にそして主体的に出展し、参加していただ

いてイベントが開催されていることが非常にありがたい。地域の方々は、できるだけ尼崎21世紀の森を良くしようという想いで努力をしてくださっているので、継続的に皆さんがこちらに通ってくれるようなスキームをこのイベントも含めてできたら良い。

## ■協議事項

- (1) 尼崎21世紀の森構想エリアにおける「共創」によるまちづくりの推進について  
(資料3)

### ○資料説明（事務局）

資料3をもとに事務局より説明。

### ○意見交換

委員：今現在、色々なプロジェクトが様々な人が関わって共創により実施されているかと思うが、知らない方は多いと思うので、取り組まれていることをマップなどで見ることができると、森構想エリア外の方向けのPRに使えるかと思う。

会長：皆が主役で皆が発信するということかと思う。

委員：森の会議と企業版森の会議に参加させてもらっている。企業版森の会議では、企業が一堂に集まり、環境に対する取組み等の情報を共有できる場になっていることは良い。企業それぞれに狙いがあり集まっていると思うので、個々の企業のニーズを汲み取っていかないと、このプロジェクト自体が継続していかない部分もあると思う。

会長：市民参加型のイベントと企業のネットワークは当然違つて当たり前である。富山県で行われていた魚津三太郎塾では、中小企業に勤めている人が10人ほど集まり、3つの新規事業を立ち上げている。企業が集まり事業が生まれるようになってきたら、他の所とは違う先進的な取組みになると思う。

委員：資料3の6ページについて、人の絵が描いてあるが誰か分からぬ。例えば、プロジェクトには、どのような人たちが参加しているのか見えていいと良い。森の文化祭では、尼崎21世紀の森構想の地域の皆さんに、尼崎21世紀の森を知つてもらうために開催しているが、芦屋市や西宮市の方は知らない方が多く、そのような方にどのようなアプローチをしていくかを考える時、例えば「多様な主体」というのが誰なのか分からなかった。

先程、委員が仰っていたように、この公園の中で企業がビジネスに繋がるような、何かのプロジェクトの実験や、ベンチャー的な研究みたいなものができるようなものに切り分けた方がいいかと思う。市民の皆さんには西宮市や芦屋市など色々な所から参加できるような、顔の見えるイメージみたいなものがあると嬉しい。

会長：各省庁の新規事業を頂いてきて、皆さんと一緒にプロジェクトを実施するというはどうだろうか。そのような面白そうなことを企業や住民とできれば、人が見えるプロジェクトになると思う。

委員：淡路島公園の観光交流部会では、会議をするだけではなく、事業化できるような展開をしている。この協議会の場でも議論したことが事業化するような公園を作っていくと良い。

環境学習フェアに参加して、尼崎はものづくりに関する企業が多いと思った。公園は色々な人が訪れる場所なので、企業の商品開発等の際に商品の検証の場として公園を使ってはどうか。企業のやりたい放題ということになると良くないが、他の公園のモデルになれば良い。

尼崎の森中央緑地で最初に植樹したところが約20年経ち、樹林地が発達して生物多様性が高度に保たれている状況になってきているのが、この年表から分かる。薪として活用している話を聞いたが、自然の多様性から文化の多様性への移行というものがあるのではないか。郷土資料館や兵庫県立人と自然の博物館などと連携していくながら、データベースとして蓄積することで、自然環境情報とそれと関連した文化的な活動とが繋がっていることが見えてくると思う。自然遊びのレッドリストなども出てきても良い。

あと、学校との連携の中で、おそらく高校や大学との連携はされているかと思うが、小学校や幼稚園とも連携されているのか。

事務局：小学校3年生の子どもたちが授業で訪れており、最近はデイサービスの子どもたちが、のびのび過ごす場所として活用されている。尼崎市立成良中学校がエリア設定型森づくりで活動されている。「森のようちえん」という幼稚園の子ども向けのプログラムもある。高校や大学だけではなく、幼稚園、小学校、中学校あるいは、デイサービス等の施設等、様々な年齢層の子どもが尼崎の森中央緑地を訪れている。

委員：環境学習について、対象とする環境の不思議への気付きや、子どもたちの感性の成長を目的とするところから、さらにもう一步踏み込んだまちづくりへと繋げていく話がある。例えばかやぶき民家があり、食体験を提供するといったこともあると思うが、食を通じて料理人になりたい人をターゲットにしたプログラムづくりが日本は欠けていると思う。食材を使ってどのように料理をしていくのかということまで学びを深めたプログラムができるなど、料理人や農家になりたいなどの担い手の方向に結び付けていく教育ができると良い。もう一步踏み込んで、まちづくりの担い手のようなところに繋げた教育ができると良い。

委員：リアルに会わないといけない人たちを集めることは省いてはいけない。一方で、DX化できるところは進めた方が良い。森の会議で同じ方々が集まるようになってしまっているのであれば、ウェブページで常時、ここの森でこんなことをしたいという意見を集めることはできないか。顔を見合わせることは大事で

あるが、何かの役割や何か楽しいことがないと行かないのではないか。DX化を進めて、どうしても難しいことは顔を合わせて実施する。尼崎21世紀の森ウェブマガジンを見ていると、「いつでも来てよ」ではなく、「イベントの時においでよ」という形になっている。イベントをしなくても人々が来る公園になれば良い。

委員：兵庫県はイベントが多いが、イベントが無くとも来てもらえるように変えていかないといけない。文化という視点で、かやぶき民家での畠などの取組みについて、宗委員からご紹介いただきたい。

委員：かやぶき民家友の会が、伝統作物を毎年栽培している。武庫一寸（ソラマメ）や尼いも、藍、綿、田能の里芋などを栽培している。毎年同じものを作ると障害が出るため、輪作で場所をローテーションして栽培している。

小学校3年生の子どもたちが校外学習で訪れる際は、理科の生き物を観察の授業で、植物や昆虫の観察を行い、社会の昔の人々の暮らしという授業で、木綿を糸にすることなどを学ぶ。タイミングが合えば尼いも掘りをすることがある。

事務局：月2回定例でかやぶき民家や畠の手入れ、年間を通して昔の里山暮らしを体験してもらうあまもり畠などのイベントを実施している。作物を収穫し、それを使った料理や、おくどさんでご飯を炊いて食べるという昔行われていたであろう生活体験をしていただくこともある。また、収穫した綿で糸を紡いでいくことや、藍染体験、節句行事の体験をしてもらうことができる。かやぶき民家は、公園の特色があるので、その特色を活かして活動を呼び込みたい。

委員：伝統野菜やその伝統的な食べ方は大事だと思うので、それをぜひ実施していくと良い。また、私が尼崎で特徴的なところだと思っているのは、企業がとても絡んでいて、お金にもかなりこだわっておられるイメージがある。教育の部分においても、子どもたちに野菜を取って食べるというところからもう一步踏み込んで、例えばファーマーズマーケットで売ることまですると農家の体験や、その扱い手の気持ちや、喜びが分かる。そういうところまで含めてプログラムができると良い。

## ■その他

### (1) 指定管理者の公募状況等報告

### ○説明（事務局）

指定管理者の公募状況等について事務局より説明。

### ○その他（各委員の方からのご発言）

委員：尼崎運河には月1回は来ており、運河の環境が改善され、様々な生きものが見られるようになっている。11月2日に開催の「クルーズで運河大発見！！」で

は、学習をしたり食べたりできる。運河には栄養が沢山あり、それらを循環させて、魚を食べられるようになるところまでを一連で体験できるプログラムを用意しているので、是非来ていただきたい。

委員：情報発信に関してSNSの話が挙がっていたが、情報発信を得意とするコミュニティがあるのでそういう所と連携できると良いと思う。

委員：ここに来ると大きな芝生があり非常に驚いた。今日の議論の中で、色々な方向からアプローチして人を呼ぶという話があつたが、子どもを含めて人々を呼ぶしきけは様々にあると思う。先日、人がたむろしている所があり、何かと思ったら、ポケモンのキャラクターが登場するということで集まっていた。森構想エリアには、様々な人がおり、様々なアプローチができるかと思う。我々新聞社は、広める立場にいるので、色々なことをして、記事のネタを提供いただければと思う。

委員：現地見学で森に行き、良い香りがし落ち着いた。また、大屋根リングを見られるところにも行かせてもらった。大屋根リングも潮風があって気持ち良いが、大人でいっぱいである。尼崎の森中央緑地のような子どもたちが喜べるような環境を大事にしていけたら良い。また、ミャクミャクが来れば沢山人が来るのではないか。

委員：先ほど、森の中を気持ちよく歩かせていただいた。今日の議論の中で食の話が出ていたが、かやぶき民家があり、子どもたちの環境体験だけでなく、色々な体験ができる可能性が沢山ある場所だと思った。情報をいただき、学校で何かできないかなと相談があった時に一緒に考えていけたら良いと思う。

委員：久しぶりに公園全体を歩き、第3工区も数十年ぶりに見た。市では公園を使いたいという声がコロナ前より増えており、多くの人が集まり、少し音が出るイベントをやりたいという要望もあるが、どうしても町中では限界がある。この地域は工業専用地域であるので、素晴らしい公園があるのをもっと多くの人に知ってもらうために、市と県で連携していくことが可能かと思う。また、森構想エリアで市が所有している魚つり公園と、この中央緑地との連携をもう少し考えていく必要があると思う。

委員：「阪神南ふれあいスポーツフェスタ2025」を10月12日に開催する。織田信成さんのスケート教室や、尼崎の森中央緑地の大芝生広場を利用した子どもラグビー大会などを行う。また、10月19日には「森のフェスタ」があるので、是非来ていただきたい。

委員：森構想ができた当初から賛同して関わらせてもらっている。2年前に自転車で転び、足が悪くなりリハビリを行っている。歩ける限りは関わらせていただきたい。

委員：環境学習フェアでブースを出店し、鉄がリサイクルできることなどをPRさせていただいた。今後も引き続き参加協力させていただきたい。PRについては、弊社も同じような課題を持っており、CMを放映して認知度向上に努めており、10月から新たなCMが流れてるが、新しいCMをしているねという話はまだ聞かない。SNS等を活用しながら幅広くPRしていく必要があると思う。良い方法があれば共有あるいは教えていただきて、PRしていきたい。

委員：現地見学で広大な自然を見て、眉間のしわが取れるような、非常に穏やかな気持ちになった。

委員：この森 자체100年かけて作っていく中で、次世代を担う子どもたちに关心を持つてもらうことが必要で、そのためには続けていくことで価値が出てくると思う。若者が集まるような場所になったら、自然に人も企業も集まってくれるのかと思う。100年は長いが地道に頑張っていきたい。

委員：大芝生広場は県立公園で一番広いのではないか。また、周辺には山やビルなども無く、阪神高速5号湾岸線以外は遮るものがないので、空の広さも兵庫県の公園の中で多分一番広いと思う。

委員：1つ目に、尼崎の森中央緑地までの道沿いが綺麗だったら良いなと思った。2つ目に、ここが賑やかになるには、交通手段などのインフラ整備が無いと来れないと思う。また、指定管理者が変わったら、今まで実施していたことが少し変わるのがかなと心配になった。3つ目に、この場所が気持ちいいという意見が挙がっているので、Wi-Fiを整備してコワーキングスペースにできると、ここで新しいビジネスが生まれたりするのではないか。4つ目に、「尼崎は森に近いですよ。ちょっと羨ましいな」と言われて他よりもアドバンテージを感じられるようなまちになっていけたら良い。

会長：淀川河川公園では、スケートボードの練習場ができる。スケートボードは音がするが、音が出ても大丈夫な場所に作るということで、場所に適したものを作るのが良いと思う。

空を広角レンズで撮影して、パンフレットに載せたらどうか。

魚づり公園は、指定管理者が管理するようになってから良くなかった。今の指定管理者の武庫川渡船は環境学習にも取り組まれていたかと思う。

日本製鉄のCMを見たとき、このようなCMを流すようになったのかと感動した。県立公園の有馬富士公園と丹波並木道中央公園にもかやぶき民家があり、淡路景観園芸学校にも茶室がある。民家と県立公園の連携を考えていけると面白い。企業版とあわせて子ども版の新規事業を考えてみると良い。日本ではどこもやっていないと思うので、そのようなことも是非やっていくと良い。

12月20日に兵庫県が開催する「ひょうごユースecoフォーラム」では、嶽山委員がコーディネーターをしている。森構想エリアの取組みを発表いただけると

良い。

共創という言葉を使っているが、有馬富士公園は兵庫県の参画と協働を言う時のモデルであった。共創という言葉を使うのであれば、森構想エリアで行っていることが兵庫県の共創のモデルであると言えるくらいの迫力で頑張ってほしい。

年表について、森構想策定後が空白となっているが、この協議会と共に3つの部会があった頃のことを知っている人に話を聞くと、この空白が埋まり年表が完成するのではないか。

本日は色々なご意見をいただき、新しいアイデアが沢山出てきた。

## ■閉会

以上